

私たちがめざすもの それは・・・

ゆたかな緑 きれいな水 いきた大地

NPO法人水環境研究所

わきみず通信

第16号

平成26年11月15日発行

村田川湧泉（千葉市緑区）



活動レポート

谷津の還元的環境実態調査（印旛沼環境基金助成事業）スタート！

畔田沢で3年間継続した調査の成果を、印旛沼流域の他の谷津で検証することを目的とした新たな調査がスタートしました。今回の調査では、畔田沢と同様に湿地が形成されており、高い硝酸性窒素濃度の湧水が存在する谷津を対象としました。候補に挙げたのは、八千代市の菖蒲谷津、立沢新田、米戸沢の3カ所です。まず、12月の本番調査に向け、9月6日（土



下見に訪れた八千代市菖蒲谷津(左)と湧水(右)

曜日)に下見を行いました。参加者は5名。最初に訪れた千代市の菖蒲谷津では、風は秋の訪れを感じさせる心地よい風と黄金色に実った稲穂が私たちを迎えてくれました。谷津の中央を流れる水路は土水路ではありませんでしたが、豊かな水がとうとう流れ、湧水の存在が多いに期待されました。期待通り、上流では谷津斜面沿いに湧水が湧いていました。パックテストなどで調べたところ、調査のテーマを満足する谷津であることがわかりました。

次に向かったところは、酒々井の山田の谷津湧水でしたが、湿地は見られませんでした。さらに、和田地区の「おばあちゃんの谷津」では湿地が乾いており残念ながら調査の対象となるには条件が揃っていませんでした。しかし、群れをなすホトケドジョウや地元の住民が整備している湧水を案内してもらい「おばあちゃんの谷津」は健在でした。今回の下見は残念ながらここで時間切れとなってしまいましたが、収穫の多い一日でした。

印旛沼体験フェアに参加しました。

印旛沼流域健全化会議が主催する「印旛沼体験フェア」が10月25日、26日の2日間にわたって佐倉市ふるさと広場を会場に開催されました。私たち水環境研究所は26日のみの1日参加となりましたが、幸い心配された雨も降らず楽しいイベントとなりました。我が研究所のブースでは、発行図書である「ちばの湧水めぐり」のほか、年報を販売したほか、「わき水通信」などの広報誌も配布しました。さらに来場者には12月予定している公開講座のチラシも配り広報活動に頑張りました。



湧水の写真も展示しました。



パックテストは子供たちに大人気(^^)

そのほか、簡易水質測定と称して、来場者にはパックテスト、pH計、EC計を使って実際に印旛沼の水、水道水、湧水「くもの井」、市販の飲料水の「きき水」体験をしてもらい、多くの人に参加してもらいました。特に子供たちにはパックテストが大人気で、一人で何回も挑戦する場面もありました。ちなみに、印旛沼の水は、測定せずにほとんどの人が見ただけで正答できました。また、来年も機会があったら参加したいですね。

印旛郡誌に見る湧水と人々（2）

水田灌漑用の池（その1）

湧水は、稲作にとって大切な灌漑用水です。冬期の湧水は谷頭の池に溜めて灌漑用水として補っていました。印旛郡誌には、故事をもった灌漑用池の記事がたくさんあります。

（1）澤山の泉

澤山の泉は谷清村（現白井市）にあり、日本武尊の御手洗清水なり。尊を祭る草薙神社あり。この清水は民の田地を養うものにして、いかなる干ばつにも神明の水徳にて湧き出ること大海の如し。社の辰巳に御供田あり。御田の米を炊きて五節句に献供す。世の婦人の乳出ぬ者 御供米を御手洗の清水にて炊きて食すれば神変不思議、よく乳出ずると称す、云々とあります。澤山の泉は、灌漑用水として大切にされていたことが分かります。澤山の泉は、神崎川左岸から北総ニュータウンの台地に向かって延びる谷津の谷頭にあり、湧水口は二つあります。一つは祠のある池の底から、一つはスギ林の中に自噴しています。二つの湧水口から流れる水は、一つの太い流れになって川底の砂を洗い、きらきらと輝いていましたが、最近は流れが細くなって、落ち葉が黒く沈んでいます。

神崎川低地に接するこの辺りの台地の裾は湧水の多いところで、清戸辨天の池などが記載されています。かつては水田を潤していましたが、現在はゴルフ場内の人工的な弁天池になっています。この他にも印旛郡誌に記載されていない湧水や池が沢山あります。

（2）坂田の池

坂田池は、八生村（現成田市）大竹にあり。面積3町6反（約360アール）あり。四面山をめぐらし、池内に湧泉ありて、いかなる干ばつといえども涸渇することなく常に滔々と流れて耕地50余町歩を灌漑す。初夏の候ジュンサイを生じ、冬期は鴨・小鴨等の水禽群集して狩猟に適す。池端に有名な子持梅あり、とあります。また、この梅は、片多梅（片端梅）とも呼ばれ、その由来を次のように述べています。堤が決壊して容易に治らないで困っていた。あるとき一女が来て、「人柱を立てるしかない」というのを聞いた村人は、その女を沈めて堤を造った。女は、背中に梅の実をかじっている子供を背負っていた。そこから梅の木が生えて実を結ぶようになったが、実はどれも半生半腐れのものであった。今はその木は枯れてしまったが、村人はその由来を残そうとして、そこに梅の木を植えた、といます。村人にとって大切な水田灌漑用ため池を造る苦勞が、よく分かる気がします。



現在の坂田池は、成田市が公園として整備し、森に囲まれた広々とした憩いの場となっています。坂田池を取り囲む台地の裾には、たくさんの湧水がみられます。近くに、龍角寺八つ井戸の一つ「子は清水」（前記1（4））もあります。

（3）千把が池

千把が池は、松崎（マザギ）村（現成田市）にあり、として印旛郡誌には概要次の話が記載されています。昔、一農家にお鶴という女性がいた。体格力量ともにすぐれ、普通の人の数倍の働きをしていた。ある年の田植えの時に、千把の苗を運ばせて、一日に一人だけで植えてしまうと一言で一心不乱に働いた。日は西に傾いてきたけれど、ついに植え終わった。お鶴は、自分の手柄に奢ったのか、股の内から夕陽を覗いて「お日様はまだ沈んでいない」と叫んだところ、たちまち天罰を受けてその場に倒れて死んでしまった。村人は、その田を掘って池にした。千把が池がその池であり、池端に松の老樹があって弁天様が祀ってある。これがお鶴の墓だという、とあります。

この話は、地元で別の話として伝わっています。いくらお鶴でも一日に千把の苗を植えることはできないと考えた庄屋が「植えられるなら植えてみる。もし植えられたら、その田をくれてやる」と言った。本当に植え終わりそうになったとき、まだお日様が高いのに、夕暮れを告げる鐘を撞いた。お鶴は、「まだお日様は高いのに、なぜ？」と言って股越しにお日様を見た。お鶴は急に疲れが出たのか、どっと泥田に倒れて死んでしまった。田は沈んで池になってしまった。この話では、お鶴のおごりを戒める話とは対照的に、庄屋が悪者になっています。昔話は、どれが本当かではなく、村人と池との結びれ方が面白いと思います。

千把が池は、現在、周辺の工事のために埋められています。

（文・写真 白鳥孝治）

活動カレンダー（平成26年11月～平成27年1月）

11月1日現在の予定です。印旛沼流域の湧水定期調査については別途案内しています。

月	月	火	水	木	金	土	日
11月						1	2
						湧水調査 (瀧・岩井) 千葉市	
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	運営理事会						
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
						湧水調査 (中村・岩井) 東葛方面	谷津調査 菖蒲谷津、畔田 谷津ほか
12月	1	2	3	4	5	6	7
	運営理事会					湧水調査 (瀧・田村) 外房エリア	谷津調査(予備) 菖蒲谷津、畔田 谷津ほか
	8	9	10	11	12	13	14
						公開学習会 ミレニアムセン ター佐倉	湧水調査 (辻・岩井) 印旛沼エリア
	15	16	17	18	19	20	21
						湧水調査 (瀧・田村) 外房エリア	湧水調査(予備) (瀧・田村) 外房エリア
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
1月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	運営理事会						
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
					印旛沼環境基金 助成事業報告会		
	26	27	28	29	30	31	

湧水モニタリング調査が始まりました！

「ちばの湧水めぐり」が発行されてから続けているモニタリング調査も平成26年度で4年目となりました。今年度は新たに2地点が加わり、68地点となりました。今年度も窒素のバックテストによる測定も継続して実施します。平成25年までの結果は中間報告として年報に報告する予定です。

すでに、9月から調査が開始しており、順調に進んでおります。4年目を迎えると、湧水も徐々に姿を変えているようです。残念なことに、印旛沼の貴重な水源である「吉岡の湧水」は、水田には池が健在でしたが、その水源が涸渇していることがわかりました。また復活できるかどうか見守って行きたいと思いません。



湿地を形成していた吉岡の湧水の水源地(平成25年10月)と涸渇して乾いた状態の水源地(平成26年11月)

お知らせ

(1) 公開学習会「みんなで学ぶ印旛沼セミナー 空からみた印旛沼」を開催します。

今回は、外部講師として近藤昭彦氏(千葉大学)をお招きし、リモートセンシングを駆使して印旛沼の昔から現在、そして未来の新しい姿をお話していただきます。

平成26年12月13日(土)午後1:30~4:00 (1:00開場) 入場無料

会場：ミレニアムセンター佐倉 ホール 皆様 ぜひご参加ください。

(2) 湧水モニタリング調査について

今年度も昨年度に引き続き、9月から各エリア別に湧水調査が始まります。各コースのスケジュールは随時メール、ホームページを通して皆様にお知らせいたします。ふるってご参加ください。

(3) 谷津調査を実施いたします。

これまで4年間に渡って調査研究してきた畔田沢の水環境調査の成果をもとに、谷津田における脱窒効果の検証を目的とした調査をテーマとして調査研究を始めます。今年度は八千代市葛蒲谷津、富里市立沢新田谷津をモデル地区に選びました。今年度の調査は下記の予定で実施いたします。ふるってご参加ください。

平成26年11月30日(土)午前8:30 道の駅「やちよ」集合

配車の都合がありますので、参加ご希望の方は事前にお申し込みください。

TEL: 080-6515-6497(担当 岩井) E-mail: kubi_0929@yahoo.co.jp

印旛沼流域湧水定期調査のご案内

毎月印旛沼流域の湧水調査を実施しております。調査に参加をご希望される方は、事前掘田和弘理事(E-Mail: dzf01212@nifty.ne.jp)に直接ご連絡のうえ、日程、集合場所、集合時間等をご確認ください。

事務局より会費納入のお願い：平成25年度会費未納の方は、お支払いをお願いいたします。

お支払方法：銀行振り込み(振込先 千葉銀行 本店営業部(普通) 3706977

又は事務局へ直接(080-6515-6497)

本法人は皆様の会費により運営されており、活動に伴う消耗品や活動参加者への交通費、日当等に充てられています。どうぞ会員の皆様方には、ご理解とご協力のほどお願いいたします。

「わきみず通信」第16号

発行 平成26年11月15日

編集・著作 特定非営利活動法人水環境研究所

URL: <http://www.wakimizu.org/>

お問い合わせは下記まで

e-mail: office_iwe@wakimizu.org

*****編集後記*****

今年は紅葉狩りに行けないまま、冬の季節を迎えてしまいそうです。しかし街路樹の紅葉は例年になく色鮮やかですね。来年は温泉につかりながらゆっくりと紅葉を愛でたいものです。ところで、先日明治神宮の「清正の井」なる湧水を見てきました。閑静な森に湧く湧水、都心にいるということをお忘れてしまいそうな不思議な空間でした。パワースポットだそうですので、皆さんもぜ力を授かりにお出かけください。
